

1 起動・再開

claude	→ 対話画面を起動
claude '依頼'	→ 依頼付きで起動
claude -c	→ 直近の会話を継続
claude -r 名前	→ 指定会話を再開
claude -p '依頼'	→ 回答して終了

対象プロジェクトのフォルダーで起動します。

5 主なスラッシュ操作

/help	→ 利用できる操作
/status	→ 現在の状態
/model	→ モデルを選択
/permissions	→ 許可ルール管理
/resume	→ 過去の会話を再開

コマンドは行頭で入力。/ を打つと一覧が出ます。

2 最初の流れ

1. 質問する	→ 構成を理解
2. Plan Mode	→ 変更せず計画
3. 計画を確認	→ 範囲と方法
4. 実装を許可	→ 変更を開始
5. テスト・差分	→ 結果を確認

Shift + Tabで権限モードを切り替えられます。

6 プロジェクト設定

/init	→ CLAUDE.md作成
/memory	→ 記憶内容を編集
/mcp	→ MCP接続を管理
/agents	→ エージェント管理
/add-dir	→ 作業場所を追加

最初のセッションで /init を使うと便利です。

3 良い頼み方の型

目的	→ 完成させたい状態
対象	→ ファイル・機能
条件	→ 技術・禁止事項
確認	→ テストや見た目
報告	→ 変更点と注意点

不明点があれば、先に質問するよう伝えます。

7 CLIの便利な指定

cat log claude -p	→ ログを解析
claude --add-dir 場所	→ 別場所を追加
claude --agent 名前	→ 専用agentを指定
claude --permission-mode plan	→ 計画で開始

追加場所はファイルアクセスを広げるため、範囲を確認。

4 調査用の依頼

「構成を説明して」	→ 全体を把握
「原因だけ調べて」	→ 変更せず診断
「根拠を示して」	→ 判断材料を確認

8 入力・操作

Shift + Tab	→ 権限モード切替
Ctrl + C	→ 実行を中止
Ctrl + D 2回	→ 終了
@ファイル名	→ 対象を明示

基本の順番

質問 → Plan Mode → 計画確認 → 実装 → テスト → 差分確認。

削除・公開・送信・課金を伴う操作は、実行直前に確認。

1 権限モード

default	→ 読み取り中心
acceptEdits	→ 編集を自動承認
plan	→ 調査・計画のみ
dontAsk	→ 事前許可以外は拒否
auto	→ 安全確認付き自動実行

初心者はdefaultまたはplanから始めるのが安心です。

2 許可ルール

Allow	→ 確認せず許可
Ask	→ 毎回確認
Deny	→ 必ず禁止
優先順位	→ Deny > Ask > Allow

迷う命令、外部通信、重要ファイルはAskまたはDeny。

3 CLAUDE.md

/init	→ ひな型を作成
作業手順	→ ビルド・テスト
決まり	→ 書式・禁止事項
確認基準	→ 完了条件を記載

Claude Codeが毎回参照するプロジェクトの説明書です。

4 拡張機能

Skills	→ 再利用する手順
Agents	→ 専門作業を分担
MCP	→ 外部ツールと接続
Hooks	→ 処理前後に自動実行

追加機能とHooksは内容・配布元・権限を確認します。

5 バグ修正の依頼例

再現手順を確認して	→ 症状を固定
原因候補を挙げて	→ 根拠付きで分析
まだ変更しないで	→ 調査だけ
最小修正を提案して	→ 影響を限定
テストして報告して	→ 結果を確認

6 新規作成の依頼例

要件を先に整理	→ 不足を質問
計画で一度止めて	→ 実装前に承認
小さく作って	→ 複雑さを抑制
段階ごとにテスト	→ 故障箇所を特定
起動方法も説明	→ 利用手順を残す

7 変更を確認

変更ファイルを列挙	→ 範囲を確認
差分を説明して	→ 内容を理解
テスト結果を示して	→ 成功・失敗を確認
不要変更を戻して	→ 範囲外を除外

VS Code版ではReview Changesから差分へコメントできます。

8 完了時の確認

目的を満たした？	→ 要件と照合
テストは通った？	→ 失敗も確認
不要変更はない？	→ 差分を確認
戻し方はある？	→ Git・バックアップ

『残った問題も報告して』と頼むと見落としを減らせます。

安全の合言葉

bypassPermissionsは、隔離したコンテナやVM以外では使わない。
秘密情報を貼らず、知らない命令・接続・外部送信を許可しない。